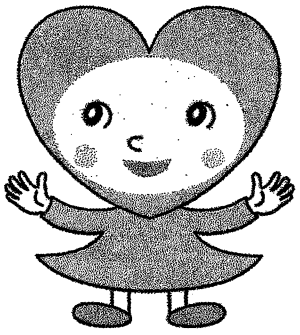
令和４年度

第4次能美市地域福祉活動計画[1年目]

評価委員会報告



地域福祉推進のマスコット

のみんちゃん

社会福祉法人能美市社会福祉協議会

令和４年度　第４次能美市地域福祉活動計画評価委員会報告

開催日時：令和５年３月１６日（木）午後７：００～９：００
開催場所：能美市ふれあいプラザ　２階　第１会議室
出席者：

高塚　亮三	評価委員会	委員長	
西川　方敏	〃	副委員長	
吉田　　良	評価委員会	委員	
高田　　茂	〃	委員	
津田　康則	〃	委員	（こころに寄り添い合う人づくり委員会　委員長）
小西　彰子	〃	委員	（　〃　副委員長）
坂井　祐史	〃	委員	（　〃　副委員長）
藤田　珠美	〃	委員	（見守り・助け合い推進委員会　委員長）
佐々木久美子	〃	委員	（　〃　副委員長）
栗山　よしみ	〃	委員	（くらし応援委員会　委員長）
山崎　静男	〃	委員	（　〃　副委員長）
近藤　沙夜里	〃	委員	（　〃　副委員長）

以上　１２名（敬称略）

１．評価の方法

地域福祉活動計画の１年目の活動成果を報告する会「春 まち ぽかぽか プロジェクト（以下「春ぽか」）は、新型コロナウイルス感染防止対策に配慮しながら、令和５年２月１８日（土）～２５日（土）の間、実施されました。活動計画を推進する３委員会の企画プログラムや、最終プログラムの「地域福祉のつどい」で、助けたり助けられたりの地域づくりに向けた福祉活動のヒントを得ることができました。

評価委員会は、３委員会から提出された自己評価をもとに、第４次活動計画の１年目としての取り組みについて、意見交換し、委員会相互に現状を共有し、評価すると共に次年度に向けて課題を確認することをもって総合評価としてまとめました。

２．報告と公表について

令和５年度に開催される市社会福祉協議会の理事会（６月６日（火））・評議員会（６月２０日（火））へ評価委員会の評価を報告します。評価の公表は、３年目：令和６年度末と、５年目：令和８年度末の活動終了時に行うことになっています。

令和５年３月３１日

令和４年度
第４次能美市地域福祉活動計画１年目の取り組みについての報告

第４次能美市地域福祉活動計画評価委員会
委員長　　高　塚　亮　三

第４次能美市地域福祉活動計画の１年目の取り組みは、令和５年３月１６日に開催しました評価委員会をもって、全ての日程を終了いたしました。ここに評価委員会より報告いたします。

この１年間、第４次地域福祉計画と第４次地域福祉活動計画が同期にスタートし、この２つの計画が車の両輪となって能美市の福祉を推進していくことを目指してきました。これは、新しい取り組みであり、まだまだ磨き上げていかなければいけません。１年間やってきて、春ぽかで「地域包括支援体制推進協議体（のみ共)」のプログラムと、「地域福祉のつどい」のプログラム及び講演により、地域福祉計画と地域福祉活動計画が同期し、多くの市民と思いを共有でき、非常に内容の濃い「春ぽか」になったと思っています。地域福祉計画と地域福祉活動計画の第４次計画の２年目への橋渡しとして、第４次活動計画１年目について下記の点を確認しました。

１．評価の視点

◇　「障がい」という言葉の意味についてしっかりと検討しておくことが必要です。「障がい」に対する理解をすすめる中で、「ひきこもり」にも視野が広がったことは大事なことです。「障がい」と言う言葉だけでは言い尽くせない「活動の制限」や「社会参加への制約」による「生きにくさ」もあることを捉えておく必要があります。これからの超高齢社会を過ごすに当たり、「生きにくさ」を感じている市民の視点で議論をすすめることが、当活動計画には必要なことです。

◇　地域福祉は地域における文化であり、文化土壌を耕していくことです。個人の成熟も必要で、その個人から更に地域全体の成熟へとつながっていかなければなりません。溢れる程の情報の中から、市民一人ひとりがそれぞれに自分に適した情報を選び取り、自発的に行動に移していくことで、文化に厚みがでてきます。「春ぽか」で一年を締めくくる形式を重ねてきたことで、市民の自発性・主体性に磨きがかかり、「地域福祉のつどい」を通してその成果を確認する機会とするパターンが定着してきました。

◇　超高齢社会に備え、また自閉症や発達障がいに向き合い、諸制度の改革の流れを見据えながら、市民がお互いに見守り合い、助け合う「地域福祉委員会」の活動の充実を更にすすめることが重要です。

◇　地域の特色を生かした住民主体の活動が盛り上がることを大切にしていかなければなりません。

2．各委員会の報告

◆こころに寄り添い合う人づくり委員会

◎自己評価

第４次活動計画の指標は、地域における「ふれあい行事」の開催数は 204 回、障がいのある方（その親等）の仲間作りと社会参加を目的とする交流の機会の開催数は 39 回、子育て支援に関する集いの場の実施回数は 268 回、地域における福祉体験・共生理解の体験者の延べ人数は、3,525 人でした。

今年度の取り組みとして、２つの項目に重点を置きました。まずは、障がいについての理解をすすめるために、障がいのある人とない人の交流の場を作りました。多様性を学ぶ場やインクルーシブ、ごちゃまぜの交流の場をたくさん作ろうと委員会で話し合いました。

２つ目に、「こころに寄り添い合う人づくり講座」を開催し、障がい者問題は障がい者だけの問題ではなく、むしろ障がいのない人の問題であることを知ってもらえるような取り組みを行いました。障がいの**個人モデル**：障がい者が困難に直面するのは「その人が障がいがあるから」であり、克服するのはその人（と家族）の責任だとする考え方と**社会モデル**：社会こそが「障がい（障壁）」を設けており、それを取り除く責務が社会にあるのであり、社会の「障がい（障壁）」に対する鈍感さが問われているとする考え方があります。心を改めてもらわなければならないのは前者の個人モデルであることをいつも心にとめながら、講座をすすめてきました。

具体的な取り組みとして、市民生委員児童委員協議会との合同研修を開催しました。これで３年目になります。これからも地域の福祉を担う民生委員児童委員協議会との研修会の協働開催を続ける予定です。

今年度に医療的ケア児支援法ができました。そこで医療的ケアの現状について医療的ケア児支援センターの中本氏よりお話を伺いました。「障がい者」本人だけではなく家族が大変な思いをしていること、社会的資源を必要としていることを学びました。

また、みんなの街フェスに参画し、パラスポーツであるボッチャと輪投げのコーナーを設けて、延べ 100 人程の方に参加して頂きました。しかし、障がいのある人とない人との交流までには至らなかったので、今後、検討していかなければなりません。

児童館へ出向き、放課後児童クラブの児童への啓発活動として、絵本と紙芝居を行いました。内容は「障がいの子と周りの子とのつながりについて」と、「トランスジェンダー本人が自分のことをみんなにわかって欲しいということを伝えたもの」でした。子ども達は素直にその内容を受け取ってくれました。「男らしさ、女らしさではなく、自分らしさが大事」という感想もあり、しっかりと内容を受け止めてくれていることを実感しました。

放課後児童クラブと放課後等デイサービスの交流はボッチャを通じて行いました。無邪気に楽しんでおり良かったのですが、反省点として、放課後等デイサービスの子どもに対する時間の配慮に一部欠けたところがありました。時間をきちんと伝えることが必要であったと反省しています。

「春ぽか」の講座では、２人の当事者の方から話を拝聴しました。社会参加するにはどうしたら良いかなど、前向きな内容で、聴衆も積極的に自分達ができることを考えていく元気をもらいました。アンケートの内容からも、講座の企画者側の意図通りの感想が多く書き込まれていました。

この１年間を振り返ってみての課題としては、参加者を福祉関係者だけに限らず、一般市民も巻き込む必要があったことです。一つには地域福祉委員会等にこちらから出向くことが必要であったと思います。また ICT の活用についても、能美市地域自立支援協議会の通所系事業所連絡会の公式インスタグラムで紹介してもらいましたが、まだまだ必要なことをたくさん発信して行く必要がありました。多様な組織との連携については、今年度、児童館の連絡会に参加し、丁寧に意図を説明したことで多くの協力を得ることができました。自立支援協議会が動いてくれたことにより、放課後等デイサービスの子ども達とつながることができました。今後もいろいろな組織と連携を密にしていきたいと思います。幼少期から障がいに対する正しい知識を得て、出会いやふれあいを通して理解を深めることも必要です。

今後に向けては、社会モデルでの障がい理解を通した啓発を行います。当事者の思いを共有できる場や、自分たちの団体ではどのような取り組みを行っているかを紹介して頂くことを考えています。インスタグラム等を活用しての情報発信も進めたいと思います。児童館や自立支援協議会、学校等、様々な機関と連携することにより、啓発活動を更に活発にしていきたいと思います。

◎相互評価

●自分達のアイデアを出して取り組みがされていると感じました。

●今年度の取り組みは本当に素敵な活動だと思います。啓発は地道な活動を積み上げて行われるものであり、新たな場所や医療ケアなど幅を広げながら取り組まれているので、この形で来年もお願いしたいと思っています。もう少し上の学年を巻き込んでいくことで、障がいの理解や多様性が拡がっていく可能性があると思います。若い世代はLGBTQ、ダイバーシティ、SDGｓなどの言葉に慣れ親しんできているので、これから社会に出て、相手のことを汲み取り、感じとって、それを発信して頂けたら良いと感じました。

●出前講座に関して、地域福祉委員会活動の報告でふれあいの事業の実績がある町会をターゲットにすると受け入れられ易いのではないかと思います。

●西任田町は、ふれあい事業としていきいきサロンを老人会と町内会が連携して行っています。防災訓練も行っています。

●末信町地域福祉委員会に参加しようと企画したが、コロナや大雪で予定通りできませんでした。地域福祉委員会メンバーの９人に障がい等の話をすると、それぞれの思いを伺うことができました。少人数で話し合うことも大事だと思いました。

●地域福祉委員会活動の報告を見ていると各町会で温度差があると感じます。高齢者や障がい者の施設がある町会は、高齢者が障がい者のことを地域のこととして見てもらいやすくなるのではないかと感じます。実際に山口町に障がい者施設があり、町内会活動の掃除に参加したり、チラシを配ることで、身近に感じてもらうことが大事だと思っています。町内会から気に掛けて頂いているので、有難いと思っています。

●町内会と高齢者のＧＨとは年１、２回、交流しています。障がい者施設とも交流をして行きたいと思っています。そのようなところに「人づくり委員会」も入って行けると良いのではないでしょうか。

●第１次地域福祉活動計画の時には、地域ごとに福祉ニーズが違うことが強調されていました。小規模の集落と大規模の集落では、お互いの知り合い度や年齢構成が違うので、地域ごとの福祉に対する温度差はあって当たり前だと思います。只、どういう方向に向かうかという方向性は大切だと思います。

●福祉施設がある地域は、福祉施設がない地域よりも少しでも身近に感じることが出来るのではないか。地域で行われている「福祉見守りあんしんマップ」の調査の意識は高齢者に向いていることが多いと思いますが、障がい者にも同じレベルで意識を持って頂けると良いと感じました。

●三ツ屋町にも、高齢者施設があります。防災訓練はデイサービスが休みの日曜日にしかしないが、災害が平日に起こったらどうなるのだろうと思ったりします。日曜日は仕事が休みであるため男性もいるが、平日は男性が殆どいません。そんな状況で避難訓練をするのはどうだろうかと思います。

●これまで３年間、難病の小学生の送迎を支援してきました。その子は知的障害はありませんが、ランドセルが持てないだけのことで知的障害があると思われています。その子も家族もそのことに気付いています。障がいにも色々あることを知ってもらいたいと思います。

◆見守り・助け合い推進委員会

◎自己評価

第４次活動計画の指標は、地域福祉委員会の実施回数は 494 回、いきいきサロン・地域カフェ、公民館開放等の実施回数は 1,430 回、地域福祉委員会ヒント探し講座入門編修了者数は 409 人、地域福祉委員会と連携をとる地域内の「生活支援の助け合いグループ」の把握団体数は 18 団体、ボランティア登録人数は 3,049 人、ボランティア登録団体数が 83 団体でした。

今年度の取り組みは、ICT を活用、委員同士がライングループをつくり、情報を共有することにしました。各委員会からは、所属団体としての地域課題や悩み、更に願いごと等を共有できるよう意見を洗い出してもらいました。これらの意見を委員会としての方向性を確認するために活用しました。また、活動計画のめざす内容について、各所属団体として取り組んでいること、今後取り組めそうなこと等を確認し合いました。令和４年８月の豪雨災害をきっかけに、見守り・助け合い活動の大切さが痛感され、SDGｓの目標 11「住み続けられるまちづくりを」について確認し、災害に強いまちづくりを目指すための早急な取り組みが必要であるという認識を共有しました。更に災害時の助け合い活動が功を奏した事例を手掛かりとして、各種団体やボランティア等の「普段からのつながり」の大切さについて理解を深めました。この理解を更に確かなものにするため、活動計画の報告会では、「能美市民防災ネットワーク」と共催し、参加者一人ひとりが地域でできる「見守り・助け合い活動」について考えて頂きました。地域でつながり合うことの大切さについての意識を高めることができたのではないかと思います。

次に見えた課題は、所属する委員から「これまで地域福祉委員会に参加する機会がなかった。」という声や、「委員会の報告の機会である「春ぽか」のことを初めて知った。」等の声を受け、町(内)会が組織団体等を巻き込みながら、一人ひとりができる見守り・助け合い活動について、町(内)会全体で考えていけるように継続的な意識づけが必要であるということです。また、見守り活動に関する情報

を共有することや、情報発信のしくみの一つとして、ICT を活用し、つながる工夫が必要です。

今後に向けては、委員会で各所属団体が活動計画の位置づけを確認し合い、地域における「つながり」の大切さの意識をさらに高められるよう継続的に協議を深め、地域ぐるみの見守りや助け合い活動へとつなげていくためのきっかけづくりをすすめます。また、ICT を活用し地域の見守り・助け合い活動の情報を広げていくための周知方法についても、各所属団体で取り組めるような工夫につなげていくことをすすめていきます。

◎相互評価

●人づくり委員会もそうですが、地域福祉委員会として取り組んだことだけが取り上げられている傾向にあり、本当は住民一人ひとりのレベルが大事であると思います。そこを拾い上げてまとめることは難しいです。見守り助け合いはかなりできているような印象も受けますが、どのようにしてデータとして残せていけるかが大事だと思います。

●「春ぽか」に参加して２つ思ったことがあります。防災のことになると当事者意識が増すと感じました。誰もが身近に感じるテーマで、向き合わなければならないことが大きい。だから、意見がたくさん出て活性化される。障がい者、高齢者であろうが、マイノリティの方々などどなたでも意識が入り易い。考えてくれる。そういう切り口でその方々への理解や、思いをはせること、助けるためにはどうしたら良いかを考えるなど広がりがあり、防災はそのような部分でも良いと思いました。

●今年の「春ぽか」では、最初は寺畠町会の発表だけで良いかなと思っていたが、時系列でどのように災害に至ったか、町会が動いたか、ボランティアがどのように動いたかを伝えることで皆さんにわかりやすいと思って発表しました。

●寺畠町会長はすごいと思いました。町会長で地域は変わると感じました。

◆くらし応援委員会

◎自己評価

新たに作られた委員会で、委員会の方向が定まらず大変でした。第 4 次活動計画の指標は、市内で実施されたフードドライブの回数は 27 回、フードドライブでつながった生活支援のネットワーク団体数は 30 団体、フードドライブの配布件数は 299 件でした。

今年度の取り組みは、それぞれの地域の現状を確認し合い、地域で暮らす誰もが繋がり、助け合うためにはどうしたら良いかを話し合いました。また、「団体や施設などが連携してできることが何か」も話し合いました。生活支援を必要としている人に辿り着く手掛かりともなり、また、市民の助け合いの活動となるフードドライブを年 4 回実施しました。フードドライブ活動の内容を知って頂くため、集められた食品を渡している団体等に呼びかけ、両者を結びつけ、「自分達ができることや役割」を明確にする機会としました。ボランティアに参加した団体は、寺井高校 JRC 部、市母子寡婦福祉連合会、市国際交流協会（ベトナムの方）、就労支援事業所、個人ボランティアなどです。寺井高校生からは「能美市ってすごく良いところだ。」と言ってもらえましたし、母子会からはお母さんが子ども連れで

手伝いに来てくれ、親子共々食品の仕分けを手伝ってくれました。国際交流協会からは、毎回、職員が外国の方と一緒に手伝いに来てくれました。就労支援準備事業所からは、社会参加をめざす対象の方を連れて高田委員が来て下さいました。皆さん生き生きとした表情をしていて良かったと思います。生活保護の方も来てくれました。食品を提供してくれる側と受け取る側の両者が集える場になりました。「フードドライブで集められたものがどこに行っているのか」との市民の声があったことや地域で生活する外国の方と言葉が通じないことで疑惑の目を向けたりすること、また「困っている、助けて！」と言えなくて孤立する事例があったことなど、委員同士で情報交換しました。私がいつも皆さんに向かって投げ掛けることは、皆さんは「お金がない、食べ物がない、助けて。お願いします。」と言えますか。そう言う前に自分はそのようにならないように努力していると思います。でも、明日の食べる物に事欠く人もいるのだと言うことを自分ごととして考えることが大切です。「春ぽか」の報告会では、フードドライブ食品の提供先や経験した情報を困っている人との相談に役立てていることなどを知って頂く機会としました。外国の方への偏見をなくすために、異文化の理解を深める活動もしています。「困っている、助けて！」と言える地域づくりは、一筋縄では解決しない難しいことです。普段からの地域とのつながりが大事です。人材育成や人と人とのつながりづくりが大切です。

フードドライブに取り組む中で見えてきたことは、地域には困っている人、支援を必要としている人がいることです。このことを企業・団体・町会などに呼び掛け、多くの団体が主体となり、フードドライブの取り組みが始まり、助け合いのしくみが出来上がったのです。そんな中で生野菜や日持ちしない物の寄付があった場合に、適切に必要な方に利用して頂く必要があります。フードドライブは、困った人への支援がつながるよいしくみではありますが、関係者が一堂に集まって話をする機会がないこと、その人との関係性がつくれないことから、そのためにも人と関わる場づくりをすすめることが必要です。

今後に向けては、一人でも多くの方の支援につながるための情報発信として、市が実施している「みまもりあいアプリ」や他の情報発信の資源を把握し、タイムリーなつながりをすすめます。人との関わる場づくりとして、今ある居場所をつなげる仕掛けを行っていきたいと思います。

◎相互評価

●裾野を広げるという意味では、フードロスを少なくする目的も混ぜると来やすく、参画してくれるところが増えるかも知れません。一般的に誰もがという部分で入りやすいのでないでしょうか。

●市が１年に１回、フードロスの観点からフードドライブを行っています。

●１０月がフードロス月間です。市内３カ所のリサイクルセンターで実施しています。

●SDGｓの目標１２でフードロスも視野に入れています。

●３月１１、１２、１３日の３日間、３会場でフードパントリーを開催し合計５９名の方が利用しました。小さい子を連れたひとり親家庭の方や高齢者の方など幅広い年代の方がいました。その中には、水道管が凍結して破裂し、多額の水道代がかかり生活が苦しかったのでパントリーはとても助かったという方、子どもの

成長が気になると話される方、年金ぐらしで苦しいと話される方もいました。相談につながる機会にもなりました。

●車のない方でもパントリーに来られるように、会場はのみバスが停車するところにしました。徒歩や自転車で来る方もいました。

●各地区の民生委員児童委員協議会にも案内し、気になる方を知らせてほしいことを伝えたことで、自分で取りに来られない方には民生委員が代わりに取りに行ってもよいかと聞かれるケースもあり、このようなつながりをつくっていくことで広がることができると今回のフードパントリーでは教えていただきました。

●生活保護の方は原則、車がないと聞いているのでそのような工夫、取りに来られない人の対応ができているので良かったです。

3．総合評価（意見交換）

●共生についてのみんなの意識がしっかりとしていません。それぞれの意識が問題であり、資料等を用いてすすめてきましたが、まだまだであると思います。福祉教育の推進については、団体や学校関係とつながっていけたら良いです。多様な人々の思いを共有するには、まず、その人の生活を知ること、理解することが大事です。それを知った上で発信していかなければいけません。孤立の問題については、困っていると言えない原因としては、自分がこれまで大事にされてこなかったとの心の傷を持った人、差別や偏見を受けてきたとの思いの強い人は言い出せないのではないでしょうか。周りの意識が変わった時や、誰か一人でもその人に寄り添う人ができれば、発言もできるのではないかと思います。ICT の活用については今から若い方々の存在が大事ではないかと思います。

●「春ぽか」で見守り・助け合い推進委員会のプログラムに参加して、防災に関わることになると意識が自分ごとになるので、防災の話題をきっかけにして色々な気付きが生まれてきます。昨日も、能美市民防災ネットワーク委員会で話が出たが「助け上手、助けられ上手」ができる地域づくり、環境づくりをめざしていけたら良いと感じました。

●地域福祉委員会活動の充実については、地域福祉委員会活動ヒント探し講座で入門編 36 人、実践編で 5 地区の地域福祉委員会が受講しました。春ぽかで、見守り助け合いの大切さの意識づけとして、災害を切り口に事例紹介を行い、情報共有とモチベーションをあげることを図りました。このモチベーションを維持することが大事です。ICT を活用した情報共有については、市の「みまもりあいアプリ」について委員のメンバーで共有し、メンバーの一人である郵便局長が、市の郵便局長会で「みまもりあいアプリ」を紹介し、取得してもらうとの発言もありました。そのことは、企業等との連携にもつながります。更に壮年団や老人会など、各種団体も見守りの担い手になれる可能性にも目を向ける必要があります。

●私は民生委員として、防災について何をしたらいいのか。町内会、地域福祉委員会の一員として何をしたらいいのか、はっきりしたいと思いました。

●各町会には、防災組織があります。その中で民生委員も避難誘導係や給食係など、組織の一員として活動したら良いと思います。春ぽか 地域福祉のつどいのアンケート集計をみると、このような活動を知らなかったという意見が結構ありました。まだまだ、周知啓発が必要です。

●相談できる場や機会をつくることに関しては、フードライブにお手伝いに来てく

れた方にも声掛けすれば、つながりが広がり、困りごとを相談できる場にもなる。「相談を受けるので来て」と言っても来ないと思います。フードパントリーを3地区ですることで、そこに来た方とつながるなど、色々な機会をつくり、活用してつながっていくことが大事です。強みを活かした助け合い活動やネットワークづくりについては、委員メンバーが様々な団体から代表として参加しているので、委員会で話し合われたことを各団体に持ち帰り、伝えてもらうことで、つながりあうことができたら良いです。ICT の活用については、今の中学生はクロームブックを持っており、教科書は学校に置いておけると聞きました。時代は変わったと思いました。大人は「みまもりあいアプリ」でつながり、子どもはクロームブックなどを活用していければ良いです。地域における助け合い活動の意識啓発については、フードドライブ、フードパントリーを通じて困っている人が能美市にいることを知ってもらうことが啓発活動につながります。コロナ禍で仕事が無くなった方や、障がいがあり仕事ができない方など、色々な原因があり困っている人がいることを知ってもらい、自分に何ができるか考える機会になったら良い。困っている人も困っていない人もみんなが一緒に何かをする、それぞれができることをする。フードドライブでは障がいのある方が手伝ってくれた。そのように誰もが活躍できる場、役割を持つ場を見つけることができるようにすすめていきたいです。

●誰もが役割を持つことは、人が生きていく上で幸せ感を味わう大事なことです。フードドライブのお手伝いの中で役割を持つことや、生活困窮の方が三道山子ども食堂に弁当を取りに来て、そこで調理のお手伝いや子どもの遊び相手などをすることでネットワークづくりができたら良いと思います。サードプレイスも障がいのあるなしに関わらず必要です。外国の方とつながりを持つ場所をつくることや子ども食堂で交流することなど、来年度は各団体が実際に横につながることや、ICT を活用して情報提供がスムーズに行われたら良いと思います。例えば野菜の寄付があったらすぐに欲しい人につながるようにしたいです。明日も8番ラーメンから600キロのラーメンが届くので、そのような時に皆さんにすぐに情報提供できるしくみをつくっていきたいです。

●委員会に参加して1年目で何もわからないまま終わってしまいました。色々な団体から出てきている委員の話を聞いて知るところまでで、「人づくり委員会」としてできることまで深まる前に終わってしまいました。私は和気町に住んでいます。和気町には社会福祉法人佛子園 星が岡牧場 があり、お祭りの時に獅子舞で訪ねることと、虫送りの時には星が岡牧場の人に来てもらい、文化祭のときには作品を出展してもらっています。今日、皆さんの話を聞いて、今後、私が出来ることを考えた時に、地域福祉委員会へのつなぎ役ができるのではないかと思いました。近所の福祉推進員の方にも声をかけて和気町でできることがないかを聞いて、活動していきたいです。もし、2年目があれば、皆さんに自分ができることから始めていきませんかと声かけしていきたいと思います。

●これまでインクルーシブと言われてもピンとこなかったが、「ごちゃまぜ」と聞いてなるほどと思いました。多様性を大切にするということで固い感じで捉えていたが「ごちゃまぜ」というと、わかりやすく、言葉の大切さを学んだ。監視を見守りとか、それくらいの違いしか思い浮かばなかったが新たに発見しました。災害時における民生委員・児童委員の役割については、自主防災組織である程度の

役割分担はされていると思われるがそこで考慮していただきたいことは、福祉見守りあんしんマップを持っている方として、組織のトップと連携を図って見守りや安否確認に積極的に関わっていただきたいことです。守秘義務者として持っている情報を活用していただきたいと思います。

失業すると時間はあるが社会から必要とされなくなり孤立感、疎外感を持つ人も出てきます。フードバンクがその様な方の受け皿となり、様々な方のサードプレイスとしての機能を発揮すれば、単に貧困だけが理由のフードバンク利用ではなくなり、多様な活用のできる場所となる可能性がひろがります。

障がい者の外出支援については、ファミリーサポートセンターが子どもの送迎をしているがその辺がどのような関りを持つのか、組織間の連携という点でファミリーサポートセンターの位置づけを見直しても良いのでないかと思いました。

この2，3年でICTの活用については、すごく身近になったと感じました。コロナ禍による副産物だと思います。安い価格のスマホが普及した背景もあり、1980年代に東京大学の坂村健教授が立ち上げたトロンプロジェクトでイネーブルウェアと呼んでいた、発想で同じものがありました。それは、能力が足りない部分をコンピューターで補うことで、例えば外国人が英語で話したことを日本語に翻訳する人がいるように、能力の補完法として活用する発想に似ていると思います。

●多様性を大切にするということで、どんな意見もしっかりと聞き、話し合うことでお互いに理解を深めて行くことができます。「知る➡理解する➡共感する➡活動(行動)する」という言葉の連鎖から、意識して行動できる様になることは人間の本質的な部分です。もっと認識できる人が増えるように第４次活動計画２年目も色々な意見を出し合って、より良い社会をめざしていきたいと思います。

４．まとめ

１年を終えて見えてきた課題はたくさんありますが、第４次が始まって、第３次までとはまた一段と福祉に取り組むレベルがアップしたと確信できました。一つにはSDGｓという揺るがぬ視点が加わったことだと思いますが、世界を見渡すと本当にどうなってしまったのかと疑問を呈せざるを得ない厳しい現実もあります。しかし、私達は怯むことなく、すべての人がウェルビーイングを追求できる状況へと導くための物語を作っていく義務があると思います。

地域福祉計画と地域福祉活動計画が車の両輪になって能美市の福祉を推しすすめていくという第４次の計画を作り上げた直後には、両輪とは何だろうかと確たる思いもないまま船出をしましたが「地域福祉のつどい」を経て、私の捉え方は、地域福祉計画は福祉の地域化を担い、地域福祉活動計画が地域の福祉化を担って、歯車が噛み合った処に真のコミュニティを生むことができることを確信しました。福祉の地域化とは、市が地域福祉計画に基づきサービスを適正に配置し、地域の偏りを生じないようにすることであり、地域の福祉化は地域の人たちが、福祉というものを理解して、みんなで力を合わせて行く体制を作ることで実現できるものだと思います。コミュニティとは、コミュニケーションがきちんと機能している場です。１年を経て、このようなことが第４次活動計画の方向性として見えてきたように感じます。

推進する委員会	令和4年度　こころに寄り添い合う人づくり委員会　評価シート							
第4次計画の指標	指標項目	指標数値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	・地域における「ふれあい行事」の開催数(単年度数)	330回	204				
	・障がいのある方（その親等）の仲間作りと社会参加を目的とする交流の機会の開催数(単年度数)	35回	39				
	・子育て支援に関する集いの場の実施回数（単年度数）	250回	268				
	・地域における福祉体験・共生理解の体験者の延べ人数（単年度数）	5,500人	3,525				
第4次計画でめざすこと	①私たちが暮らす地域の多様な人々に対して、地域ぐるみで共生意識の理解を深めます。 ②福祉のこころを育むために教育関係者や団体が連携し、共生意識を高め、考える場や機会をつくります。 ③多様な人々の思いや願いを共有できる場や機会をつくります。 ④孤立しない子育て支援について地域ぐるみで考える場や、機会をつくります。 ⑤研修や啓発の機会にＩＣＴを活用し、情報発信をすすめます。						
第3次計画での課題	・障がいのある方もない方も共に地域で暮らしていくという意識を広めるためには、理解啓発の機会がまだまだ必要。 ・地域で誰もがその人らしく暮らしていくためには、『こころに寄り添い合う人づくり講座』などの考え合う機会の継続が必要。 ・福祉教育では、幼少期から障害に対する正しい知識を得て、理解を深めることが必要。						
どのように進めてきたか。(1年目)	◆障がいについての理解をすすめるために、障がいのある人とない人の交流の場をつくった。多様性を学場や、インクルーシブ（ごちゃまぜ）な交流の場をつくった。 ◆『こころに寄り添い合う人づくり講座』を開催し、障がい者問題は障がい者だけの問題ではなく、むしろ障がいのない人の問題であることを知ってもらえるよう取り組みをすすめた。そして、自分自身の障がい者に対する意識を問うとともに、何かできることはないか話し合う機会を持てるようすすめた。 ～具体的な取り組み～ ・市民生委員児童委員協議会との合同研修を開催した。 ・みんなの街フェスに参画し、パラスポーツを体験しながら交流できる場を設けた。 ・児童館へ出向き、放課後児童クラブの児童への啓発活動を行った。 ・放課後児童クラブと放課後等デイサービスに通う児童との交流の場をつくった。 ・春 まち ぽかぽか プロジェクトにて、『こころに寄り添い合う人づくり講座』を開催し、障がいのある当事者の声を聴き、自分にできることを自身に問う機会とした。						
取り組みの中で見えた課題(1年目)	・参加者が民生委員･児童委員や福祉関係者などに偏る傾向が見られるため、幅広く市民が参加できるような工夫が必要。 ・研修や啓発活動の機会にICTを活用し、多元的に情報発信することが必要。 ・教育関係者・福祉団体・それぞれの組織の連携を強化して、共にすすめて行く意識付けが必要。 ・福祉教育では、幼少期から障がいに対する正しい知識を得て、出会いやふれあいを通して理解を深めることが継続的に必要。						
今後に向けてどう進めるか	・今後も地域ぐるみで、障がいに対する理解をすすめる活動を継続する。 ・当事者の思いを共有できる場や、各団体が取り組んでいる実践を広く市民に知ってもらえるようにともに啓発活動する機会をつくる。 ・研修や啓発活動の機会にICTを活用し情報発信することをすすめる。 ・福祉教育の更なる充実に向け、地域と福祉施設等が連携を強化し、考える場やふれあいの機会をつくる。						

第4次計画を推進する委員会	令和4年度　　こころに寄り添い合う人づくり委員会　経過シート
★第4次計画でめざすこと	① 私たちが暮らす地域の多様な人々に対して、地域ぐるみで共生意識の理解を深めます。 ② 福祉のこころを育むために教育関係者や団体が連携し、共生意識を高め、考える場や機会をつくります。 ③ 多様な人々の思いや願いを共有できる場や機会をつくります。 ④ 孤立しない子育て支援について地域ぐるみで考える場や、機会をつくります。 ⑤ 研修や啓発活動の機会にICTを活用し、情報発信をすすめます。
★委員会とSDGs	多様な人々の存在や共生についての理解が深まり、互いを理解し、認め合い居心地よい地域づくりが根付くようにすすめます。

実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）		
	第1回会合（6/15）	1）委員紹介、自己紹介 2）委員長・副委員長の選出　津田委員長・坂井副委員長・小西副委員長 3）経過説明 ・第3次活動計画最終年度の評価確認を経て、第4次活動計画1年目としての取り組み内容を確認した。 4）今年度の協議の方向性及び年間開催予定（頻度）について検討 ・昨年度の評価委員会の報告のとおり、障がいについて考える理解・啓発の機会づくりとして、気持ちに寄り添った関わり方を学ぶ「人づくり講座」を開催し、学びと実践につなげる。また、学童クラブの児童にも理解・啓発活動の機会について協議する。 ・毎月1回委員会を開催。
	第2回会合（7/13）	1）市民児協障がい者部会との合同研修会『こころに寄り添い合う人づくり講座』 テーマ：医療的ケアを必要とする子どもたちがいしかわの地で健やかに成長するために ～いしかわ医療的ケア児支援センターの紹介～ 講　師：国立病院機構医王病院　医療的ケア児支援センター　中本富美　氏 研修を受け、委員全員の障がいに対する思いについて共有した。 2）次回の委員会での議題について確認した。
	第3回会合（8/17）	1）障がい啓発のための活動として、福祉課より「みんなの街フェス」の説明を聞き、参加協力することで話し合いをした。 2）能美市自立支援協議会について知る機会として、矢鋪委員より説明を受け、情報共有した。 3）今年度の人づくり委員会としての具体的な今年度の取り組みについて協議を深めた。 啓発活動については、地域と放課後児童クラブへ出向くことを確認し、同時に自主勉強もすすめることで話し合った。
	第4回会合（9/21）	1）委員長より、第4次活動計画の意義と本委員会の目指すことや活動について再確認した。 2）これから活動していくために、まずは自分たちが日頃行っている活動を自己紹介し、本委員会の活動として活かせるようグループディスカッションの形式で情報共有した。 また、地域や子どもたちに伝えたい思いや願いについて話し合った。
	第5回会合（10/19）	1）こころ豊かな地域づくりの会にて協議された、令和4年度春まちぽかぽかプロジェクトのテーマについて情報共有し、本委員会にて分科会をもつことの意義について確認した。 2）障がい者週間にあわせて開催される「みんなの街フェス」への協力について話し合った。 パラスポーツを通し、障がい者と健常者がふれあえる「ボッチャ」「わなげ」体験ブースで参加・協力することに決定した。 3）末信町地域福祉委員会での出前講座の開催を企画した。⇒諸事情で延期。（可能であれば、R5年1月で再調整） ◈活動報告◈能美市ジュニアボランティアクラブへの啓発活動「人づくり講座」について （10月29日）ふれあいプラザ
	第6回会合（12/5）	1）「みんなの街フェス」について、参加当日の動きと係分担と時間シフト、ボッチャルール等について確認した。 2）「春 まち ぽかぽか プロジェクト」での分科会について、内容を協議した。 テーマ：「 出会い　ふれあい　つながりあい 」 に、決定。 今年度春ぽかのテーマにあわせ、助けたり、助けられたり周りとつながりながらも前向きに生きている当事者の声を聞く会とする。 話した人（当事者）が話して良かったと思え、参加者が～私にできること・寄り添い合うとは何か～を考えることで、お互いに有意義な時間となるよう願い、内容を決定した。まずは出会い、ふれあい、そして行動（つながりあい）へ。 3）冬休みの放課後児童クラブで、出前講座を開催することを決定。児童館（6箇所）に訪問調整中。 ◈活動報告◈（放課後児童クラブ・みんなの街フェス）啓発活動「人づくり講座」について （12月26日）福岡児童館、（12月27日）根上北部児童センター・湯野児童館、（12月28日）粟生児童館、（R5.1月6日）緑が丘児童館 （12月10日）みんなの街フェス
	第7回会合（R5.1/17）	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト について、内容の詳細を決めた。 当事者の話をふまえて、参加者が自分にできることは何かを自身に問う機会とする。 また、当事者と事前に関わりながら打合せをすすめることで、当事者が発表して良かったと思えるよう発表を一緒につくっていくことを話し合った。 2）地域福祉委員会での「人づくり講座」について、詳細と係分担を決めた。 3）放課後児童クラブへの啓発活動「人づくり講座」についての振り返りをした。 ◈活動報告◈地域福祉委員会への啓発活動「人づくり講座」について （R5.1月27日）末信町地域福祉委員会
	第8回会合（R5.2/19）	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト こころに寄り添い合う人づくり委員会の報告会 こころに寄り添い合う人づくり講座 ”であい・ふれあい・つながりあい”～私たちにできること～知ること、そして行動へ！ ①知的障がいのある方とその家族の思い　②障がいのある方の思い　③意見交換　④まとめ
	第9回会合（R5.3/2）	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト（プログラム5）、一年間の取り組みの振り返りをした。 ◈活動報告◈放課後児童クラブへの啓発活動「人づくり講座」について （R5.3月27日に訪問予定）辰口中央児童館

推進する委員会	令和4年度　見守り・助け合い推進委員会　評価シート

第4次計画の指標

指標項目	指標数値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
・地域福祉委員会の実施回数（単年度数）	950回	494回				
・いきいきｻﾛﾝ・地域ｶﾌｪ、公民館開放等の実施回数（単年度数）	2,000回	1,430回				
・地域福祉委員会ヒント探し講座【入門編】修了者数（地域福祉委員会活動推進員登録者数）	520人	409人				
・地域福祉委員会と連携をとる地域内の「生活支援の助け合いグループ」把握団体数（累計数）	25団体	18団体				
・ボランティア登録人数（単年度数）	4,700人	3,049人				
・ボランティア登録団体数（単年度数）	96団体	83団体				

第4次計画でめざすこと

① 私たちが暮らす地域をよくするために、地域を基盤とする「地域福祉委員会」活動の充実をすすめる。

② 各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有をすすめる。

③ ICT活用した情報共有や、地域活動の情報発信をすすめる。

④ 福祉施設・企業・商店との連携をすすめる。

⑤ 地域における助け合いの担い手や理解者の拡充をすすめる。

第3次計画での課題

・住民が安心・安全に暮らしていくために、地域のことを話し合える場が必要であり、話し合いの中から、気になることや困りごとを把握し、個人の問題を地域の問題と捉え、解決に向けて話し合う場が必要。
・市内には様々な規模の町内会があり、地域での福祉活動には温度差があるが、それぞれの町に合った見守りや助け合いの方法やしくみがあり、それぞれの町の状況を把握し、情報を共有していくことが必要。
・人が集まることや、ふれあいつながることが難しい状況の中で、ICTを活用してつながり、また、情報を発信することや収集する方法を考えることが必要。
・地域で活動するボランティアや担い手不足が課題であり、あらゆる世代の人に福祉に関心を持ってもらうきっかけを作ることが必要。

どのように進めてきたか（1年目）

・ICTを活用したつながりの工夫の中で、委員同士ライングループをつくり情報共有の機会につなげた。
・各委員会より所属団体としての地域課題や悩み、また願い等共有したいことの意見を洗い出し、委員会としての方向性を確認した。
また、活動計画のめざす内容について、各所属団体として取り組んでいることや、今後取り組めそうなこと等を確認し合い、団体としての活動計画での位置づけや、意識づけにつなげた。
・令和4年8月豪雨災害をきっかけに、見守り・助け合い活動の大切さについて理解を深め、ＳＤＧｓの目標について内容を確認し合い、災害に強いまちづくりを目指す意味も含め、委員会では目標１１（住み続けられるまちづくりを）を意識しながら、取り組みにつなげられるよう思いを共有した。
・委員会では、災害時の助け合い活動につながった事例をきっかけに、各種団体やボランティア等の「つながり」の大切さについて協議し、理解を深めた。そして、活動計画の報告会では、災害を一つの見守り助け合い活動を考える切り口とし、「能美市民防災ネットワーク」と共催し、参加者一人ひとりが地域でできる「見守り・助け合い活動」について考えていただく機会へとつなげ、地域で“つながり合う”ことの大切さについての意識を高めた。

取り組みの中で見えた課題（1年目）

所属する委員からの「これまで地域福祉委員会に参加する機会がなかった」という声や、「初めて委員会の報告の機会（春まちP）を知った」等の声を受け、町（内）会が組織団体等を巻き込みながら、一人ひとりができる見守り・助け合い活動について、町（内）会全体で考えていけるよう継続的に意識づけが必要。
また見守り活動に関する情報を共有することや、情報発信のしくみの一つとして、ICTを活用しつながる工夫が必要。

今後に向けてどう進めるか

委員会では、各所属団体が活動計画における位置づけを確認し合い、地域における「つながり」の大切さの意識をさらに高められるよう継続的に協議を深め、地域ぐるみの見守りや助け合い活動へとつなげていくためのきっかけづくりをすすめる。
また、ＩＣＴを活用し、地域の見守り・助け合い活動の情報を広げていくための周知方法についても、各所属団体で取り組めるような工夫につなげていくことをすすめる。

第4次計画を推進する委員会	令和4年度　　見守り・助け合い推進委員会　経過シート
★第4次計画でめざすこと	① 私たちが暮らす地域をよくするために、地域を基盤とする「地域福祉委員会」活動の充実をすすめます。 ② 各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有をすすめます。 ③ ICT活用した情報共有や、地域活動の情報発信をすすめます。 ④ 福祉施設・企業・商店との連携をすすめます。 ⑤ 地域における助け合いの担い手や理解者の拡充をすすめます。
★委員会とSDGs	地域住民が、互いに見守り助け合うという活動が地域に根付き、よりよく暮らせるように取り組んでいきます。

実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）		
	第1回会合(6/15)	1）経過説明 ・第3次活動計画でめざしてきたことを、令和3年度評価委員会報告書に沿って説明。第4次地域福祉活動計画の冊子に沿って、活動計画の大切なポイント及び見守り・助けい推進委員会が4次活動計画でめざすことを説明し、確認し合った。 2）委員紹介、自己紹介 3）委員長・副委員長の選出　藤田委員長・畔田副委員長・佐々木副委員長 4）今年度の協議の方向性及び年間開催予定（頻度）について検討 ・ICTを活用したつながりの工夫の中で、委員同士ライングループをつくり情報共有の機会につなげた。　・毎月1回委員会を開催。
	第2回会合(7/21)	1）地域福祉委員会について概要説明し、『見守りポイントリスト』にて見守りの必要性を確認、及び『住民同士の助け合い活動事例集』にて地域の助け合いの実践活動内容を説明し、確認し合った。 2）今年度の委員会の取り組み内容について、まず各委員より所属団体としての地域課題や悩み、また願い等共有したいことの意見を洗い出した。意見を整理した上で、次回会合にて今年度の取り組み内容を確認する。
	第3回会合(8/18)	1）委員会の今後の取り組み内容について意見交換 ・8月豪雨災害をきっかけに見守り・助け合い活動の大切さについて理解を深めた。 ・見守り助け合い推進委員会としてSDGsの目標について内容を確認し合い、災害に強いまちづくりを目指す意味も含め、委員会では目標11を意識しながら取り組むことを共有した。 2）次回の委員会での議題について確認した。
	第4回会合(9/15)	1）見守り・助け合い推進委員会にて活動計画のめざす内容について、各所属団体がどのような活動に取り組めているか、また今後取り組めそうな活動(目標)について3グループに分かれ意見交換と共有を図った。 2）次回は、それぞれの所属団体の意見内容について確認し合い、さらに見守り・助け合い活動について話合いを深めることを確認した。
	第5回会合(10/20)	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト（委員会の報告）の内容について協議を深めた。 方向性⇒8月豪雨災害を受けて、災害時の助け合い活動につながった事例から学び、防災に対する見守り体制について考える機会とすることに決まった。 2）次回は、テーマを決め、内容についてさらに詰めていくことを確認した。
	第6回会合(11/17)	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト（委員会の報告）の内容について継続協議。 テーマ：水害に学ぶ地域の見守り　～災害への意識を高め、助け合いにつなげよう～に決定。 8月の水害では、災害ボランティアセンター立ち上げにより、多くのボランティア等の協力の中で、地域の助け合い活動へとつながった。各種団体やボランティア等との“つながり”の大切さについての理解を深め、一人ひとりができる見守り・助け合い活動を考え合うことについて、能美市民防災ネットワークが報告される内容とも重なることから、防災ネットワークと委員会とが共催する形に決まる。
	第7回会合(12/15)	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト（委員会の報告）の内容について継続協議。 能美市民防災ネットワークとの共催での開催が決定したことから、内容についてさらに協議を深めた。グループワークの内容についてを重点的に話し合った。 今後は事例報告をいただく寺畠町会と、能美市民防災ネットワークと連携し、発表内容のすり合わせを行っていくことを確認した。 2）意見交換
	第8回会合(2/16)	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト（委員会の報告）の内容について最終確認。 内容・役割分担について確認した。 2）意見交換
	第9回会合(2/23)	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト　見守り・助け合い推進委員会の報告会（能美市民防災ネットワークと合同開催） 市危機管理課、寺畠町会（ZOOM）、能美市民防災NWより報告・意見交換（グループワーク）・発表・まとめ ※地域福祉セミナー、地域福祉委員会活動推進員研修会を同時開催
	第10回会合(3/3)	1）春 まち ぽかぽか プロジェクト(プログラム11)、一年間の取り組みの振り返り

推進する委員会	令和4年度 くらし応援委員会 評価シート							
第4次計画の指標	指標項目	指標数値目標	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	・市内で実施されたフードドライブの回数（単年度数）	34回	27回				
	・フードドライブでつながった生活支援のネットワーク団体数（単年度数）	54団体	30団体				
	・フードドライブの配付件数（単年度数）	430件	299件				
第4次計画でめざすこと	①私たちが暮らす地域に相談できる場や機会をつくります。 ②多様な主体がそれぞれの強みを活かした助け合い活動につなげる話し合いの場をつくり、ネットワーク　づくりをすすめます。 ③情報発信や情報入手についてICTを活用し、環境を整えます。 ④地域における助け合い活動の意識啓発をすすめます。 ⑤誰もが地域で活躍する場が広がるようすすめます。						
第3次計画での課題	・子ども食堂が実施している「ひとり親世帯や生活困窮世帯へ弁当」の配付場所はつながる場であるが、寺井地区１か所のみであり、根上･辰口地区の支援を必要としている世帯には遠いため、拠点を増やしたいとの課題があり、地域理解を更に進めていくことが必要。 ・フードドライブ活動の意義やその使途を知らない方が多いため、周知する必要がある。 ・生活困窮の方やひとり親世帯、日本で生活する外国の方で生活に困っている方々への住民の理解が充分とは言えないため、困っている方の声を拾い上げて地域で支え合うという理解を進めていることが必要。						
どのように進めてきたか（1年目）	・委員会にて、地域の現状を確認し合い、地域で暮らす誰もがつながり助け合うしくみづくりに向けて話し合いを進めた。また、「団体や施設などが連携してできることはないか」を話し合った。 ・生活支援を必要としている人につながる取り組みの一つとして、また、市民の助け合いの活動としてフードドライブを年４回実施。 フードドライブ活動に、フードドライブで集めれた食品をお渡ししている団体等に呼びかけ、つながりの場づくりと「私たちができること（役割）」を取り組む機会とした。 ボランティア参加：寺井高校JRC部、市母子寡婦福祉連合会、市国際交流協会（ベトナムの方）、就労準備支援事業所、個人ボランティアなど ・「フードドライブで集められたものがどこに行っているのか」との市民の声があったことや地域で生活する外国の方と言葉が通じないことなどからの生活する上での偏見があること、また、「困っている。助けて！」と言えなくて孤立する事例があったことなど、委員同士で確認し合った。 春まちぽかぽかプロジェクトの報告会にて、 ＊フードドライブの食品のお渡し先や相談に役立てていることなどを知っていただく機会とした。 ＊外国の方への偏見をなくすための、異文化の理解を進めた。 ＊「困っている。助けて！」と言える地域づくりに向けて、地域での関わりやつながりの大切さを、市民に発信した。						
取り組みの中で見えた課題（1年目）	・フードドライブ活動を通して地域で困っている人、支援を必要としている人がいることを知っていただいたことで、企業･団体･町会などが主体となり、フードドライブの取り組みが行われ、助け合いの仕組みであることの理解が広がった一方で、支援を必要としている人にタイムリーにつながるための工夫が必要。 ・フードドライブは、困った人に支援がつながるよいしくみではあるが、集まって話をする場がないとその人との関係性がつくれないことから、そのためにも人と関わる場づくりをすすめることが必要。						
今後に向けてどう進めるか	・一人でも多くの方の支援につながるための情報発信とて、市が実施している「みまもりあいアプリ」や他の情報発信の資源を把握し、タイムリーなつながりづくりをすすめる。 ・人と関わる場づくりとして、今ある居場所をつなげる仕掛けを行う。						

第4次計画を推進する委員会	令和4年度　　くらし応援委員会　経過シート
★第4次計画でめざすこと	① 私たちが暮らす地域に相談できる場や機会をつくります。 ② 多様な主体が、それぞれの強みを活かした助け合い活動につなげる話し合いの場をつくり、ネットワークづくりをすすめます。 ③ 情報発信や情報入手についてICTを活用し、環境を整えます。 ④ 地域における助け合い活動の意識啓発をすすめます。 ⑤ 誰もが地域で活躍する場が広がるようすすめます。
★委員会とSDGs	生活に不安を抱える人々が、人や地域とつながり、互いが助け合うしくみが、この地域に根付くようにすすめます。

実践活動内容（どんな事を話し合い、行ったか）		
	第1回会合(6/15)	1)経過説明 ・第3次活動計画でめざしてきたことを、令和3年度評価委員会報告書に沿って説明。第4次地域福祉活動計画の冊子に沿って、活動計画の大切なポイント及びくらし応援委員会が4次活動計画でめざすことを説明し確認し合った。 2)委員紹介、自己紹介 3)委員長・副委員長の選出　栗山委員長・山崎副委員長・近藤副委員長 4)今年度の協議の方向性及び年間開催予定(頻度)について検討 ・今年度の方向性を検討するためにフードドライブの実施等の意見交換を行った。　・毎月1回委員会を開催。
	第2回会合(7/19)	1)今年度の取り組みにむけて、昨年度の取り組みを委員全員で共有するために、昨年度の春まちぽかぽかプロジェクトで報告した取り組みを再度PPで再現し、意見交換をした。 2)昨年度に引き続き、フードドライブの取り組みを行うことを確認し合った。 ＊フードドライブ実施:8月20日(土)･21日(日)午前10時～12時 ふれあいプラザ
	第3回会合(8/23)	1)フードドライブの実績と品物の配付先について報告した。 2)地域の現状について話し合った。→必要なものを必要としている人に効率よく渡せるしくみが必要。生活に困っている方は、ひきこもりの方も多いことや外国の方は、便利なアプリより日本の方と交流したいとの思いを持っていること、地域で見守りの網からおちている人がいたら、まずは民生委員につないでいくことを共有した。
	第4回会合(9/27)	1)10月の食品ロス削減月間に併せて、市生活環境課との協働開催の日程を確認 ＊フードドライブ実施:10月　8日(土)ふれあいリサイクルセンター 10月23日(日)辰口福祉会館　(能美市民ボランティアフェスティバルの会場) 2)つながりづくりについて意見交換
	第5回会合(10/27)	1)フードドライブ実施の確認。 ＊フードドライブ実施:12月3日(土)4日(日)寺井地区公民館 歳末助け合い入札展にあわせて行う。 2)春まちぽかぽかプロジェクトでの委員会報告について日時、プログラム内容を協議。 日時:2月18日(土)午前10時30分～12時 プログラム内容について、住民の気づきから専門職につながった事例を寸劇で報告するなどの案が出たが、再度検討することとなった。 3)つながりづくりについて意見交換
	第6回会合(11/24)	1)春 まち ぽかぽか プロジェクトでの委員会報告についてプログラム内容を協議(継続)。 プログラムの題名を検討。決まらず次回再検討。また、内容として「フードドライブの品物がどのように活用されているのか」の市民の疑問が聞こえていることから、食の支援でつながった事例を報告することなどを話し合った。 2)フードドライブ実施12/3.4の実施について 当日の受付、仕分けボランティアの活動について、個人ボランティアや国際交流協会を通して外国の方、「のみワークポートリンク」へ声掛けを行うことを確認。また、委員は、地域でチラシを配り周知を行うこととした。 3)つながりづくりについて意見交換
	第7回会合(12/20)	1)フードドライブ(12/3.4)の実績と食糧の配付先の報告。 2)春まちぽかぽかプロジェクトでの委員会報告ついて内容協議 演題を検討、報告内容を再度話し合った。役割分担、寸劇の配役決め、読み合わせ練習。
	第8回会合(2/6)	1)春 まち ぽかぽか プロジェクトでの委員会報告ついて内容確認 困った人、困っている人が誰かにつながるためにはどうしたらよいかを、参加者同士で意見交換ができるテーマを考えた。 寸劇の練習。 2)フードドライブ実績報告。
	第9回会合(2/14)	1)春 まち ぽかぽか プロジェクトでの委員会報告の内容について最終確認。
	第10回会合(2/19)	＊春 まち ぽかぽか プロジェクト 「助けたり、助けられたりのしくみを考えよう！～フードドライブのつながりをきっかけに見えてきたこと～」実施 フードドライブのつながりをきっかっけに見えてきたことをテーマとして フードドライブの食糧って、どこにつながっているのかを紹介した。また、外国の方への支援がなぜ必要なのかの事例と地域の見守りから支援委つながった事例を紹介した。 ・意見交換「私たちができること」　参加:54名 フードドライブの実施:2月25日(土)10:00～12:00 寺井地区公民館
	第11回会合(2/28)	1)春 まち ぽかぽか プロジェクト(プログラム2)、1年間の取り組みの振り返り。

令和4年度　第4次能美市地域福祉活動計画の1年目の推進体制

能美市社会福祉協議会（R5. 3）

		令和4年									令和5年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会福祉協議会 理事会 評議員会				社協理事会 (6/6)				(10/2)		社協理事会 (12/20) 社協理事会 (12/24)		社協理事会 (2/24)	社協理事会 (3/28)
				社協評議員会 (6/22)						社協評議員会 (12/20)			社協評議員会 (3/6) 社協評議員会 (3/28)
推進組織	評価委員会			委員委嘱と委員長・副委員長の選任		NO.1 評価		第18回能美市社会福祉大会				令和4年度 春まちぽかぽかプロジェクト（2月18日(土)～2月25日(土)）各委員会の報告会と、最終「地域福祉のつどい」にて、第4次活動計画の1年目の推進報告	NO.2評価
	こころ豊かな地域づくりの会				理事委嘱と会長・副会長の選任	NO.1 こころ (8/9)		NO.2 こころ (10/18)		NO.3 こころ (12/13	NO.4 こころ (1/10)		NO.5 こころ (3/16)
	こころに寄り添い合う人づくり委員会			NO.1 (6/15)	NO.2 (7/13)	NO.3 (8/17)	NO.4 (9/21)		NO.5 (10/25)	NO.6 (12/5)	NO.7 (1/7)	NO.8 (2/19)	NO.9 (3/2)
	見守り・助け合い推進委員会			NO.1 (6/15)	NO.2 (7/21)	NO.3 (8/18)	NO.4 (9/15)		NO.5 (10/20)	NO.6 (11/17)	NO.7 (12/15)	NO.8 (2/16) NO.9 (2/23)	NO.10 (3/3)
	くらし応援委員会			NO.1 (6/15)	NO.2 (7/19)	NO.3 (8/23)	NO.4 (9/27)		NO.5 (10/27)	NO.6 (11/24)	NO.7 (12/20)	NO.8 (2/6) NO.10 (2/18)	NO.9 (2/14) NO.11 (2/28)

6月
理事会・評価委員会にて評価委員会報告